



担当=DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子

トムソン・ロイターのフィナンシャル・リスク部門の名称はRefinitiv(リフィニティブ)に変わりました

知りたい  
**投信** なるほど  
リップパー

## 5月までの資金動向

# 下落でも資金集まるリート投信

経済活動が大幅に縮小された5月ですが、投資信託市場には資金が集まりました。リップパーの推計で、国内で販売されている上場投資信託(ETF)以外の株式オープン投信は1755億円の純流入。流入超過は5カ月連続で、1~5月の累計は1.1兆円の純流入でした。

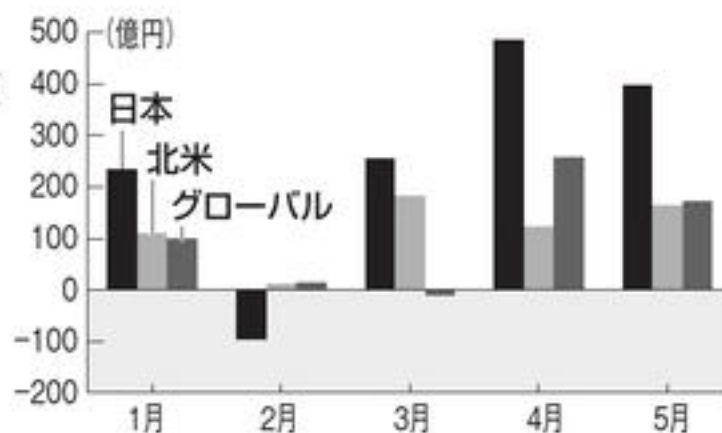
新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、ビジネスパーソンのリモートワークが進み、観光客は激減しています。その影響は不動産投資信

託(REIT)で運用するリート投信にも及び、3~5月の3カ月間で、基準価額の下落率が2ケタだったリート投信が続出しました。

運用成績が悪い中でも、リート投信には資金が集まりました。リート投信423本の合計で、5月は810億円の純流入。流入超過は12カ月連続で、昨年のような運用成績が好調な時も、今回のような悪材料の最中でも、資金を集めています=グラフ。分配金利回りの高さや不動産への分散

### リート投信の地域別純流出入額 (2020年1~5月)

地域別に分類したリート投信について、月間の設定額から解約・償還額を差し引いた。5月はリップパー推計



投資などが、根強いファンを呼ぶのでしょう。

ほかに、純流入額が多いのは、米国株やグローバル株で運用する投信です。一方、総じて債券で運用する投信からは、投資地域を問わず資金が流出する傾向です。

個別の投信では、以前にこのコラムでも取り上げた「アムンディ・ダブルウォッチ」が、1~5月累計の純流出トップです=表。4月に繰り上げ償還をした後は資金の出入

りはありません。ですが、4月までの純流出額が2位の「野村インド株投資」の5月までの累計より90億円ほど多く、しばらくは純流出上位に残るかもしれません。

3位と5位の「ファンド・マネジャー」も解約が大きかった月の影響で、純流出上位に残っています。これらは金融機関に取引を一任するラップ口座の中で、スイッチングという資金の異動があったためです。

### ■資金純流出入額ランキング (2020年1~5月)

順位	ファンド名	資金純流入額(百万円)
〈純流入額トップ5〉		
1	ティール・ロウ・プライス 米国成長株式ファンド	158,940
2	ピクテグローバルインカム株式(毎月分配)	135,340
3	☆GSフューチャー・テクノロジー・リーダーズ Bコース(為替ヘッジなし)	119,250
4	次世代通信関連 世界株式戦略ファンド(三井住友トラスト)	105,785
5	アライアンス・パースタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型	74,549
〈純流出額トップ5〉		
1	★アムンディ・ダブルウォッチ	-63,865
2	野村インド株投資	-54,816
3	※ファンド・マネジャー(海外株式)(三菱UFJ国際)	-51,970
4	グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)(日興)	-44,550
5	※ファンド・マネジャー(国内株式)(三菱UFJ国際)	-43,013

上場投資信託(ETF)を除く株式オープン投信について設定額から解約・償還額を差し引いた。リップパー推計